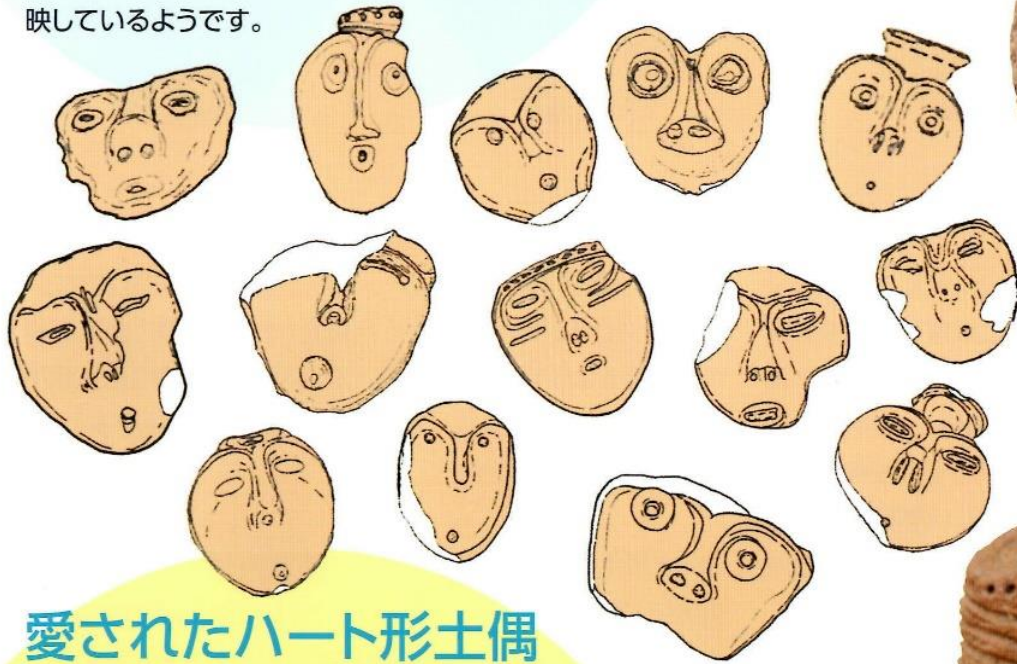


表情豊かなハート形土偶

ハート形は仮面をあらわしています。でもその表情は、ビックリ、悲しみ、むっつり、困り、怒り顔とさまざま。仮面の下に隠れた縄文女神の素顔を映しているようです。



ハート形土偶
荒小路[あらこうじ]遺跡(郡山市田村町谷田川)
高さ17.7cm

愛されたハート形土偶

「芸術は爆発だ!」で有名な芸術家の岡本太郎さんは、ハート形土偶をヒントに太陽の塔(大阪万博シンボルタワー)や多くの作品を創造しました。ノーベル文学賞を受賞した作家の川端康成さんもハート形土偶大好き人

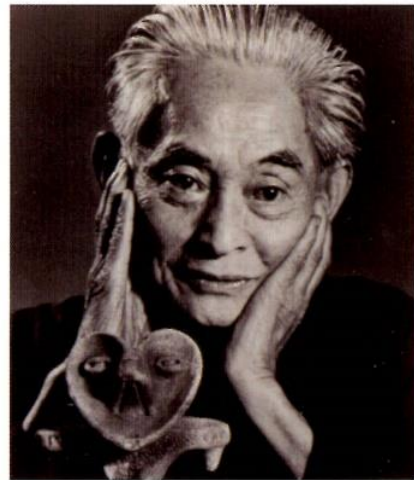
間のひとりです。千葉県出土の土偶コレクションを前に置き、表情は穏やか。大阪万博のアドバイザーとして来日した肖像写真の名手、ユーサフ・カーシュが昭和44年に鎌倉の川端邸で撮影しました。



「芸術は爆発だ!」の岡本太郎さん



「太陽の塔」原型



川端康成さんとハート形土偶

平成27年度 大安場史跡公園 第1回企画展「縄文の風景 ～ハート形土偶の生まれた時代～」

会期：平成27年7月11日(土)▶8月30日(日) 会場：大安場史跡公園ガイダンス施設

主催：郡山市/郡山市教育委員会/大安場史跡公園管理センター(公益財団法人郡山市文化・学び振興公社)

協力：東京国立博物館/福島県教育委員会/福島県文化財センター白河館/福島市教育委員会/いわき市教育委員会/三春町教育委員会/三春町歴史民俗資料館/茅野市尖石縄文考古館/北社市埋蔵文化財センター/公益財団法人川端康成記念会/岡本太郎記念館/石川智紀/上野修一/小野美代子/瓦吹堅/逸見克己/山口晋

写真提供：東京国立博物館/福島市教育委員会/茅野市尖石縄文考古館/公益財団法人川端康成記念会/岡本太郎記念館/北社市埋蔵文化財センター(順不同・敬称略)

大安場史跡公園管理センター(公益財団法人郡山市文化・学び振興公社)

〒963-1161 福島県郡山市田村町大善寺字大安場160番地 TEL.024(965)1088 FAX.024(965)1090

E-Mail oyasuba@bunka-manabi.or.jp Web http://www.bunka-manabi.or.jp/oyasuba



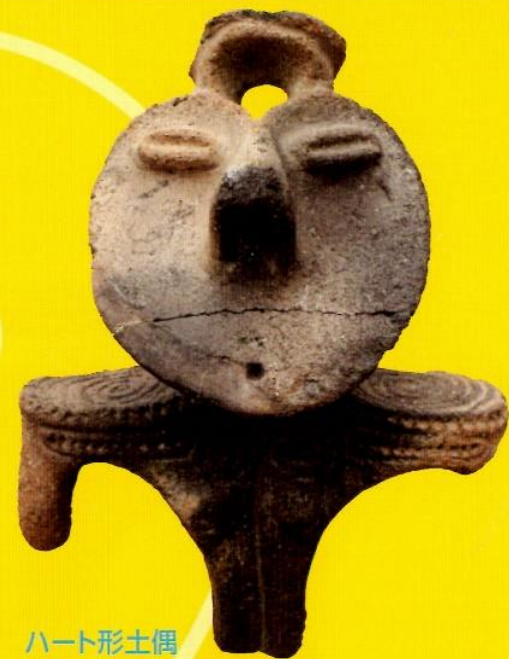
この紙はFSC®認証紙です。

紙へリサイクル可

平成27年度 大安場史跡公園 第1回企画展

縄文の風景

～ハート形土偶の生まれた時代～



ハート形土偶
割田A遺跡(郡山市田村町細田)
高さ19.0cm

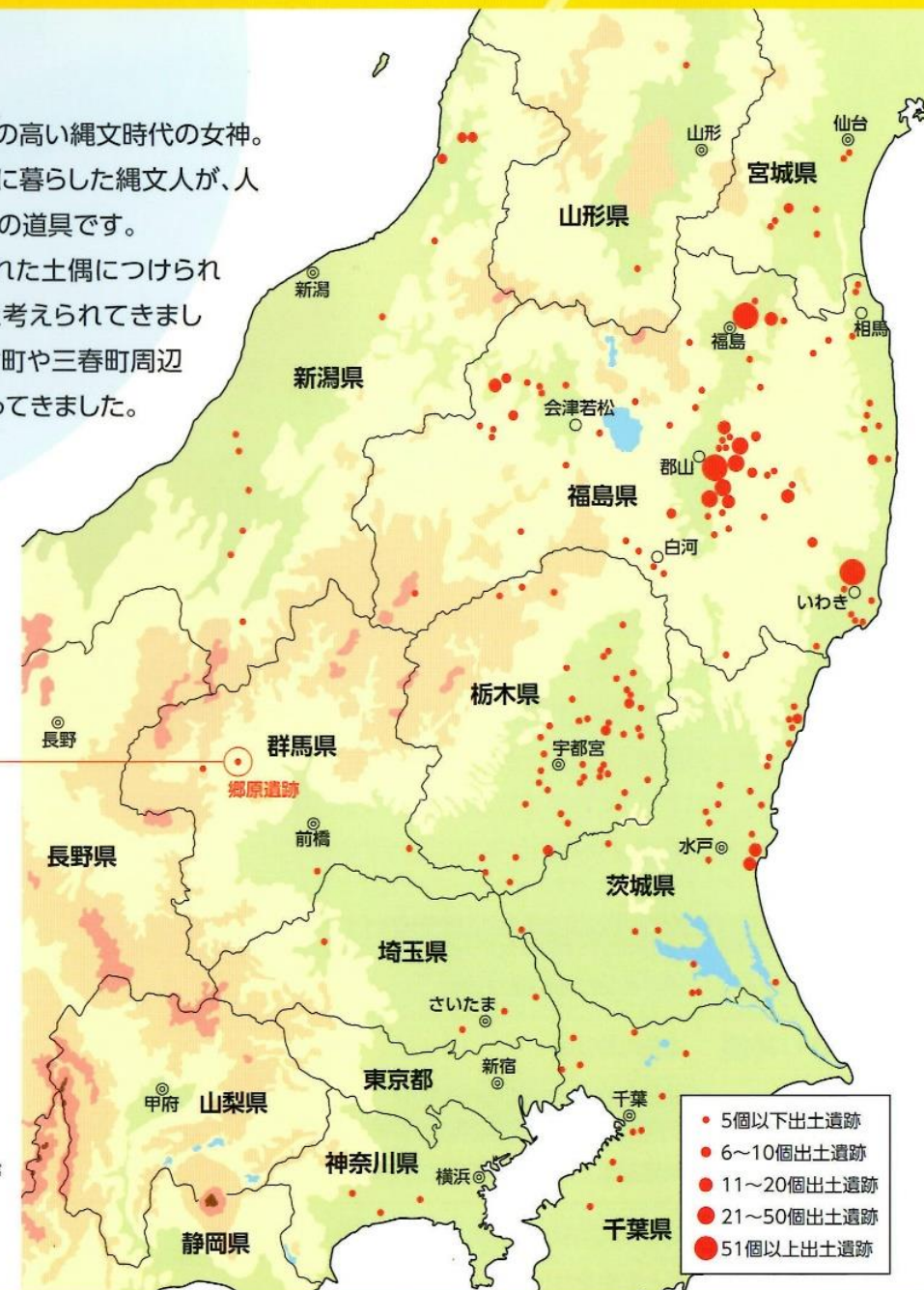
ハート形土偶

大きな顔で表情豊かなハート形土偶は、人気の高い縄文時代の女神。今から約3700年前、東北地方から関東地方に暮らした縄文人が、人や動植物の再生を願う儀式に使ったまじないの道具です。その名前は、群馬県の郷原遺跡から発見された土偶につけられたため、長い間、文化の中心は関東地方だと考えられてきました。しかし、研究が進み、現在では郡山市田村町や三春町周辺の阿武隈高原で誕生し、広まったことがわかってきました。

♥ハート形土偶の三大特徴♥



ハート形土偶
郷原遺跡(群馬県吾妻郡東吾妻町)
高さ30.5cm



個人所蔵
画像提供:東京国立博物館
TMN Image Archives
(重要文化財)



キ 寒冷な気候

一 複式炉文化の崩壊

ワ つり下げ土偶から自立土偶へ

一 子どものお墓 埋ガメの増加

ド おとなのお墓 配石墓の流行

ハート形土偶の生まれた時代

今から約4300年前、気候が温暖になると、東北地方南部や新潟県を中心に複式炉文化(※1)が栄え、集落や住居数が増大します。この時期に土偶はほとんど使われませんが、300年ほど後、寒冷期を迎えて複式炉文化が衰退し、集落数が激減するころから土偶祭祀が盛んになります。子ども専用の棺=埋ガメが増えるのもこの頃ですから、厳しい生活環境を生き抜くため、土偶を用いて人や動植物の再生を願う儀式を行っていたと考えられます。この当時は土偶をヒモでつり下げて使っていましたが、やがて儀式内容が変化し、手足がしっかり作られ、自立できる土偶が登場します。約3700年前のことで、大きなハート形の仮面

をつけた姿が特徴的です。ハート形土偶の誕生には、複式炉文化終末から時おり出土する人体文(土偶装飾付)土器が関係しているようです。郡山市曲木沢遺跡や福島市和台遺跡が良い例で、逆三角形の顔の下に、外に張りだす手足が長く、大きく表現されています。ハート形土偶による再生儀式は、阿武隈高原を中心に関東地方まで広まり約200年間続きますが、気候が温暖化するとともに、土偶の姿は頭の形が特徴的な山形土偶へと変化していきます。 ※1 屋内に、長さが1~2mもある石組みの囲炉裏を設けた特異な文化。



単身表現の人体文(土偶装飾付)土器 和台遺跡(福島市飯野町)出土 高さ33cm 重要文化財



複式炉のある竪穴住居跡 石組の巨大な囲炉裏が特徴 向田A遺跡(郡山市田村町細田)



複式炉文化直後の竪穴住居跡 囲炉裏の形が単純な石囲いに変化 向田A遺跡(郡山市田村町細田)



子どものお墓、埋ガメの調査 土器の中から6歳の子供の顎や歯が見つかる 町B遺跡(郡山市西田町鬼生田)



おとなのお墓、配石墓 お墓の上に石を並べているのが特徴 中央にハート形土偶の上半身が置かれていた 割田A遺跡(郡山市田村町細田)



男女表現の人体文(土偶装飾付)土器 身体の大きな左が男性、細身の右が女性 曲木沢遺跡(郡山市富久山町堂坂~西田町根木屋)出土

土偶の役割

妊娠した女性像をあらわした土偶は、縄文文化を代表する遺品です。時代の始まりとともに誕生したようですが、暮らしの中で一般化したのは、今から約4700年前の縄文時代中期の前半ごろと考えられています。この時期に福島県では「出尻土偶」が作られ、その後、「板状土偶」を経て「ハート形土偶」が誕生し、「山形土偶」へと姿を変えていきます。土偶の役割について、いくつかの仮説がだされています。主な6説を表にまとめましたが、現在は女神説が有力になっています。

説	内容
1 玩具説	子どもための遊び道具
2 守り神説	安産の守り神
3 護符説	身体の安全を守る「お守り」ケガや痛みを受け取ってもらうための身代わり
4 身代わり説	負傷部位と同じ部分を壊すことによって患者の全治を祈る
5 精霊説	自然界にたくさん存在する精霊を宿らせる依代 <small>よりしろ</small>
6 女神説	死と再生をつかさどる女神の化身 壊されることによってよみがえりの力を開放する